

月刊
いきいき道政報告
第18号

日本共産党 道議会議員

佐野 弘美

発行
日本共産党
佐野弘美事務所
北区北20西5 2-27
Tel 011-299-6560
Fax 011-299-6670

北海道議会第四回定例議会

道庁門前で抱負を語る

11月29日から、補正予算や北海道病院事業などが審議される道議会第四回定例会議が始まりました。

共産党道議団は、開会日早朝道庁北門前で、議会に臨む意気込みを訴えました。

佐野道議の訴え

佐野道議は「安倍政権の進める教育改革は、戦争への道」と批判し、「全国の中で遅れている部分が多々ある北海道の教育を整備・拡充し、子どもの貧困に対策を施し、一人ひとりが大切にされる行き届いた教育環境のために全力で取り組む」と、文教委員としての決意を語りました。



雪の中 議会への抱負を語る道議団
左から 佐野道議 宮川道議 真下団長

豊かな自然が観光資源

北海道にカジノはいちめ



佐野弘美道議は9日の予算特別委員会で、いわゆる「カジノ推進法案」について道の姿勢をたどしました。

全国紙すべてが批判し、国民の6割が反対するこの「統合型リゾート（IR）整備推進法案は、刑法で禁じる賭博を解禁するもので、与党議員が討論時間をもてあまして「般若心経」を唱えたことに代表されるように、十分な審議もなされないまま、安倍政権が強行している悪法です。誘致に名乗りをあげた小樽市や苫小牧市では、反対運動が巻き起こっています。

なぜ知事は前のめり
投資から投機、はては博打か

知事はいち早く予算を計上したり海外を視察するなどカジノ推進へ前のめりの姿勢を示し、3日に札幌において、IR 議連会長に道内誘致の要請などを行いました。

佐野道議は、「北海道型 IR 検討調査報告書」を作成するなど導入に積極的な道の政策を批判しました。

民営賭博が合法なんて
原資は敗者の散財

佐野道議は「賭博を禁ずる刑法と民設カジノに整合性があるのか。「統合型リゾート」が欺瞞ではないのか。海外の例を見れば、収益の大半はカジノの収益、つまり賭博客の負け分。

会議室やレストランはホテルに備わってあたりまえ、様々なレジャーやアミューズメントなども賭博場の隠れ蓑に過ぎないのでは」

カジノの功罪

ギャンブル依存症対策

「ひとの不幸で儲ける経済が、健全であるはずが無い。ギャンブル依存症拡大の懸念がある。ギャンブル依存症は難治性で自殺にも至る重篤な疾患。当人だけの問題だけでなく、失業・犯罪・家

庭崩壊・多重債務などの損失を伴う」

マカオ型よりハワイ型

雄大な自然と豊かな食で

「海外の例でも、一時的ブームに終わる例が多い。世界一を誇ったマカオも経済が衰退し、カジノからの脱却を余儀なくされている。

豊かな自然を生かして観光立国に成功しているハワイこそ、北海道観光がめざすべき道ではないか」などとたどしました。

国のすること全て良し

道側は、法的整合性も負の社会的影響対策も、国まかせの態度に終始しました。

佐野道議は、住民の反対運動に言及し、カジノに反対を貫くことを表明して、質問を終えました。



カジノ反対 佐野道議の質疑
11/9 予算特別委員会

住み良い北区に

各住みよくなる会と 社保協の申し入れ

11月30日、北区住みよくなる会・拓北住みよくなる会・あいの里住みよくなる会と北区社保協は、それぞれに寄せられている区民の要望を北区区長に申し入れました。

佐野道議の冒頭挨拶

「積み重ねてきたこの間の交渉の結果が、さまざまな要求の実現につながっています。課題は多岐にわたり、中には道政や国政に関わることもあります。市民と行政が情報を共有することは重要です。」

引き続き安心して住むことができる街を目指し



11月30日 区長交渉にのぞみ
冒頭挨拶する佐野道議

て、一緒に進みましょう」

各団体の要望事項

公共施設の建設や補修、健康づくりセンターの建設、信号機や横断歩道・踏切の設置、歩道橋の老朽化

対策、特別養護老人ホーム建設と待機者解消、除排雪の町内会負担軽減、東茨戸・西茨戸への中央バス延伸などの生活要求が多岐にわたりました。

また、生活保護、国民健康保険や介護保険制度の充実・拡充などの制度要求の提案要望が区長に提出されました

来年2月には、回答についての交渉を予定しています。

就学援助の充実を

道議団は「子育て支援と子ども貧困対策」に取り組んでいます。

第三回定例議会での真下議員の質問に答えて、9

月に道教育長が「就学援助事業の実施について」の通知をだしました。

第四回定例議会でも、菊地道議が通知の具体化を質したのに対し、教育長は「援助を必要とする時期に速やかに支給するように十分配慮することなど、就学援助制度の適切な実施について、引き続き、各市町村教育委員会や学校に働きかけてまいります」と答弁しました。



質問する菊地道議 12月6日

小学校は全国最下位 学校図書館の改善急げ



道議会文教委員会で、佐野弘美道議は学校図書館の整備状況について質問しました。

選挙権が 18 歳になった折りの 2 月に、佐野道議の質問で明らかになった 60% だった道立高校の新聞の配備率は、現時点で 100%、平均 2・31 紙となっていました。

公立小中学校の学校図書館に揃えるべき本の目録冊数(学校図書館図書標準)が、小学校 35・2% で全国最下位、中学校が 38・0% で 40 位と低いことについて、また、学校図書館法で努力義務となってい

る学校司書の配置は、小中学校ともに 14% 台とワースト 2 位と低迷する状況について、道の認識と対応を質しました。

学校教育監は、学校司書の配置が、小学校 14・2% (59・3)、中学校 14・9% (57・3)、高等学校 5・6% (66・9)にとどまり、括弧内の全国値より著しく低いことを認め、「図書の整備はもとより、学校司書の配置を進める必要がある」との認識を示し、市町村教委に対し研修を実施し相談に応じる。市町村に対しては個別の資

料を作成し働きかけるほか、必要に応じて直接訪問し要請する考えを示しました。

競争煽らず環境整備を

佐野議員は、これまで同様の議論がありながら改善されてこなかった実態

を指摘し、教育環境の整備こそが道教委の本来の役割であり、学力テストで平均点を競わせることよりも、児童生徒の人生と可能性を豊かに広げる学校図書館の整備こそが優先されるべきと、取り組みを強めるよう求めました。



11 月 28 日

道教委をたずねる佐野道議